

平成25年度北陸地区国立大学学術研究連携支援報告書

研究グループ名	がん患者と家族への支援に対する研究デザイン (支援期間：平成24年度～平成25年度)		
大学名	所属	氏名	
富山大学	医学部看護学科	○八塚 美樹	
金沢大学	医薬保健研究域保健学系	○天野 良平 正源寺 美穂	
福井大学	医学部看護学科	○上野 栄一	
※ 各大学の研究グループ責任者の氏名には○印。			
その他の機関の構成員	機 関 名	所 属	職 名
	市立砺波総合病院	看護部	部 長
			氏 名
			松原直美
成果概要	<p>【目的】語りの分析する研究基盤の構築と「聞き書き」実践活動の展開</p> <p>【成果】1. 語りの分析に対する研究基盤の構築：患者の語りやケアの場における「聞き書き」とテキストマイニングを用いた語りの分析を主テーマに、平成24年度2回、25年度1回富山大学と福井大学で講演会「研究におけるデザインと活用方法－研究デザインの多様性－」を開催した。多数の医療職種の参加者から、経験知の新たな取組に関心が寄せられた。</p> <p>2. 「聞き書き」活動の展開：①「聞き書き」活動の浸透：講演会、勉強会等を通して「聞き書き」活動の紹介を継続的に行った。語り手と聞き手との相互作用、体験した感情の明確化、体験と洞察の共有、カタルシス効果、未来にむけた目標の設定等について議論し、実践に役立たせようとしている。②「聞き書き」教育の活動：富山医療福祉短期大学看護学科の授業に実践されている「聞き書き」授業におけるテキスト、レポートを解析し、臨地実習における「聞き書き」手法導入の有効性を示した。特に、高齢者とのコミュニケーションに関係性の構築に効果的であることが分かった。③「聞き書き」勉強会の開催：1回/2ヶ月「聞き書き」勉強会を金沢にて開催し、話し手を設定した聞き書きのデモンストレーション、聞き書き本の編集方法などにつき、情報交換した。毎回「聞き書き」に関心のある一般、医療、福祉、介護関係者ら10名程度が参加した。実践は、健康な高齢者1名、がん患者の家族1名について実施した。④病院における「聞き書き」勉強会の開催：平成24年度より入院患者15名「聞き書き」実践している先進的な市立砺波総合病院において、病院に勤務する看護職、看護助手、病院ボランティア等28名を対象に、病いとともに生きる人を対象とした聞き書き実践活動の主旨と方法、手順、倫理的配慮等について、聞き書き実践看護師が講義を行い、引き続き模擬事例による書き言葉を話し言葉に置き換える演習を行った。福井では、2回の研修会に約30名の参加者があり量的研究デザインと聞き書きについての講演会を開催し、受講生らは「聞き書き」の面白さを実感し、同時にその地域特有の方言や伝統的風習等を残していく「聞き書き」活動の深さを実感した。</p> <p>3. 「聞き書き」効用の分析：終末期高齢がん患者1名の語りをデータとして、従来の質的記述的分析と新たなTMS分析手法で比較した結果、類似の分析結果が得られた。「聞き書き」の語り手体験は、終末期高齢がん患者のよりよく生きることへのきっかけとなることが示唆された。</p>		
獲得した外部資金	正源寺美穂：科研費基盤研究(C)「急性期病院における高齢患者に対するコンチネンスクエアプログラムの開発」平成25-27年度、4,940千円		